

## 学校団体の皆様へ 日光国立公園・奥日光地域の利用にあたってのルール、マナー集

一般に、学校団体は人数が多いため、利用の方法を誤ると、自然や他の利用者に重大な影響を与えてしまいます。一人ひとりにとってはささやかな行為でも、それが数百人、数千人規模になったらどうでしょう。その価値を学びにきたはずの自然そのものを壊してしまうのでは、まったく意味がありません。

先生方には、国立公園のルールとマナーを熟知いただき、いつまでも、より良い活動ができるようご協力をお願い申し上げます。

### ◆木道や柵の外への立入りは禁止されています

奥日光の戦場ヶ原、小田代原周辺は国立公園の特別地域や特別保護地区に指定されており、人の与える影響が、できるだけ少なくなるよう様々な方法により保護されています。

木道もその一つで、土や植物を人の踏みつけ(踏圧)から守るためのものです(人が歩きやすいよう設置されているわけではありません)。人が踏みつけることで、植物がすり切れたり、土が踏み固まり植物が生えなくなったり水がしみこまなくなったりします。木道から降りたり、柵の外での休憩などは、絶対にしないでください。

また、木道は原則として右側通行です。片側の道を空け、他の利用者の迷惑にならないよう歩きましょう。

### ◆植物の採集は禁じられています 笹舟をつくるのもいけません

戦場ヶ原、小田代原は、国立公園の中でも最も保護のレベルが高い「特別保護地区」に指定されています。また周辺も特別地域に指定されています。これらの地区の中では、植物を含め、土や砂、石、昆虫を含む動物を採集し、持ち出すことが禁止されています。なぜでしょうか？

自然とは、これらのものが関連し合い、循環することで成り立っています。自然物を持ち出すことは、この自然の仕組みを壊すことにつながるのです。

地面に落ちているマツボックリや落ち葉などは、私達の目には無用のものと映りますが、何かの形で他の自然物と関わりあっています。自然の中では、必要でないものなど一つもないのです。

### ◆お弁当の容器は全部回収できていますか？

自然の中でゴミを持ち帰らなければいけない理由は次のとおりです。

1. ゴミが散らかり、美観を損ねる。
2. 気温が低いと、生ゴミも簡単には腐らない。腐るとしても、自然物でないものを腐らせ土に還すこと自体が問題である。
3. 食べこぼしを食べた動物が人間の食べ物の味を覚え、人を襲うようになる危険性がある。奥日光はクマの生息地であり、餌付けグマを作らないためにも慎重に行動する必要がある。
4. 消化できないゴムやプラスチックを動物が誤食することにより体調を崩し、結果的に動物を殺すこととなっている。

「ゴミは持ち帰る」というルールはとても浸透しており、多くの方がゴミの持ち帰りを実践しています。学校団体ではどうでしょうか。先生方はご存知でも、児童、生徒の皆さんはルールの存在を知らず、軽い気持ちでゴミや食べこぼしを放置することがあるようです。

自分のささやかな行為が自然に重大な影響を与えるという可能性も含めご指導いただき、ゴミ持ち帰りルールの徹底をお願いします。

#### ◆野生動物にエサを与えないで

シカやマガモなど野生動物に出会った際、「可愛い」と感じ「エサをあげたい」と思うような、動物に親しみを覚え、何かをしたいと考えることはとても良いことです。でも、エサを与えることは動物のためになるでしょうか。

奥日光のシカの一部は、人に慣れすぎて駐車場や休憩場所に頻繁に出没します。こうしたシカの中には、交通事故にあうものもいます。また他地域では、人の食べ物の味を覚えたシカに取られた荷物を取り返そうとして、シカに腕をかまれた例もあります。こうしたトラブルを起こすシカが、どのような結果になるのか想像してください。

人の感覚で良いと思っておこなうことが、結果として動物の持つ野生を奪い、不幸な結果をもたらすことになります。テレビ等で有名ないろは坂のサル問題も、人間による餌付けが始まりなのです。野生動物には、絶対にエサを与えないようお願いします。

#### ◆歌を歌ったり楽器の演奏をするなど大きな音を出すのはやめましょう

時折、休憩場所で校歌を歌ったり、楽器を演奏している団体があります。これは自然にどのような影響を与えるでしょう。

奥日光は東南アジアなどから渡ってくる夏鳥の繁殖地として重要な地域です。こうした場所で大きな音を出すことは、野鳥を驚かし、温めている卵を残して巣を放棄させてしまうなどの悪影響を与える可能性があります。

また、静かに自然を楽しんでいる人がたくさんいます。にぎやかにしている人は楽しくても、それを不愉快に感じる人もいるということを忘れないでください。

#### ◆「大きな声であいさつ」はいいこと？

あいさつはよいことですが、自然の中でも良いこととは限りません。

戦場ヶ原や小田代原では、バードウォッチングや写真撮影など、静かに自然を楽しんでいる人が大勢います。1グループ同士の挨拶ならともかく、ひとりに対し数10～100人以上がそれぞれ挨拶をすると、挨拶される人も困ってしまいます。

パンフレット等で紹介される登山のマナーの中にも「あいさつすること」という項目は見られません。どうしても挨拶が必要な場合は、先頭の人同士が会釈する程度でいいのではないのでしょうか？

#### ◆ウォークラリーなどグループ活動でご注意いただきたいこと

戦場ヶ原の木道を走っていくグループ活動の小、中学生の姿を良く見かけますが、これは大変危険です。木道には段差があり、傾いていたり、ぐらついていたり不安定な箇所があります。また、雨などで濡れていると、とても滑りやすくなります。他の利用者を突き飛ばして怪我をさせるような例もあり、自分を含め、多くの利用者を危険にさらす可能性があります。

先を急ぐあまり木道を降りて追い越していく姿も頻繁に見られます。これは湿原の土壌や植物を著しく損傷する行為です。木道を利用する際のルール(木道から降りない、走らない)を徹底するようご指導願います。

分岐などに設置された標識(コース案内や設問)が放置されている場合があります。回収されないものは見苦しく、ゴミとして処分するほかありません。活動終了時に、責任を持って回収をお願いします。

#### お問い合わせ

日光自然博物館 〒321-1661 栃木県日光市中宮祠 2480-1

TEL 0288-55-0880 FAX 0288-55-0850 HP <https://www.nikko-nsm.co.jp>